

会 議 結 果 報 告 書

令和3年2月26日

会議の名称	第22回志木市新型コロナウイルス感染症対策本部会議
開催日時	令和3年2月9日（火）10時05分～11時15分
開催場所	庁議室
出席者	市長 香川 武文 副市長 櫻井 正彦 教育長 柚木 博 総合行政部長 尾崎 誠一 総務部長 川幡 浩之 市民生活部長 村山 修 福祉部長 村上 孝浩 子ども・健康部長 芦野 伸二 都市整備部長 中森 福夫 市長公室長 松永 仁 上下水道部長 渋谷 聡 会計管理者 今野 喜明 議会事務局長 大河内 充 教育政策部長 北村 竜一 防災危機管理課長 篠崎 勉 健康増進センター所長 大野 広幸 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種支援室長 杉田 明子 (計17人)
欠席者	(計0人)
説明員職氏名	健康増進センター所長 大野 広幸 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種支援室長 杉田 明子 (計2人)
議題	(1) 新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保の進捗状況について (2) 本市における新型コロナウイルスワクチン接種体制について
結果	
事務局職員	秘書政策課長 外立 健一 秘書政策課主任 藤崎 雄大

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会

2 議事（志木市新型コロナウイルス感染症対策本部員は、本部員と表記する。）

（1）新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保の進捗状況について

（2）本市における新型コロナウイルスワクチン接種体制について

杉田新型コロナウイルス感染症ワクチン接種支援室長より、議事について説明した後、意見交換を行った。

○本市における新型コロナウイルスワクチン接種体制について

（説明員）

新型コロナウイルスワクチンの接種体制について、本市では集団接種にするのか、個別接種にするのかを新型コロナウイルス感染症対策本部会議にて諮りたい。

はじめに、集団接種及び個別接種のメリット・デメリットについては以下のとおりである。

①集団接種のメリット

- ・一度に多くの方が接種を受けられるため、ワクチンのロスが少ない。
- ・個別接種より会場を広く取ることができる。

②集団接種のデメリット

- ・多くの医療従事者を必要とし、医療従事者を確保できる保証がない。
- ・多くの方が集まるため、感染のリスクがある。
- ・受付から経過観察まで相当の時間を要する。
- ・接種希望日が限定される。

③個別接種のメリット

- ・かかりつけ医が接種する場合は、普段の体調を把握しているため予診の時間が短く済み、患者も安心感がある。
- ・接種希望日の融通がしやすい。
- ・接種後、不安な症状を医師に相談しやすい。

④個別接種のデメリット

- ・集団接種より1つの会場で接種を受けられる人数が限られる。

次に、本市の65歳以上の約50%にあたる9,000人がワクチンを2回接種するのに必要な期間の想定については以下のとおりである。

①集団接種の想定

- ・ 医師5人で対応した場合、1日当たり360人に接種可能。
 - ・ 18,000回(9,000人分)接種するためには、50日必要。
- 集団接種を毎週2日実施する場合、9,000人がワクチンを2回接種するまでに25週(約6ヶ月)を要する。

②個別接種の想定

TMG宗岡病院、浅野病院のほか18のクリニックで実施を想定。

- ・ TMG宗岡病院：1日当たり72人、1週間当たり396人に接種可能。
- ・ 浅野病院：1日当たり60人、1週間当たり300人に接種可能。
- ・ 各クリニック：1日当たり12人、18機関で1週間当たり1,080人に接種可能。

→合計すると1週間当たり1,776人に接種可能。個別接種では、9,000人がワクチンを2回接種するまでに約10週(約2ヶ月)を要する。

以上を踏まえ、本市における新型コロナウイルスワクチンの接種体制については、かかりつけ医などから安心して接種を受けられる点や、集団接種よりも個別接種の方が接種をスムーズに進めることができると見込んでいることから、個別接種の体制で実施したいと考えている。

(本部員)

集団接種の会場はどこを想定してるのか。

(説明員)

集団接種の会場の候補地としては、健康増進センターやいろは遊学館などがあるが、ワクチンの供給状況が不透明なことや医師などの医療従事者の確保が難しいことから、個別接種の体制を考えている。

(本部員)

数値だけ見ると個別接種は集団接種よりスムーズに接種できるように感じるが、一部の医療機関に接種希望者が集中する、一方で接種希望者が全く集まらない医療機関が出る可能性もある。個別接種の10週という数値は正確と捉えていいのか。

(説明員)

TMG宗岡病院は1週間当たり396人、浅野病院は1週間当たり300人に接種が可能と医師から話を伺っている。また、2週間前から各クリニックを個別に訪問し各医師と相談した結果、1つのクリニックで1日当たり1

2人に接種が可能と見込んでいる。

(本部員)

個別接種の場合でも10週で接種を終了するという事は厳しいと思うが、その接種体制について、今後どのように進めていくのかを情報共有したい。

○新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保の進捗状況について

(説明員)

はじめに、ワクチン接種のシステム改修と接種券の印刷については、順調に準備が進んでいる。

次に、医療機関での接種体制については、医療従事者等に接種を実施する「Aグループ病院」をTMG宗岡病院、65歳以上の高齢者及び優先接種者に接種を実施する「Bグループ病院」を浅野病院が担当することになった。ディープフリーザー（ワクチン保管用の超低温冷凍庫）を置かず市からワクチンを配り65歳以上の高齢者及び優先接種者に接種を実施する「サテライト型施設」を18のクリニックが担当する予定である。

ディープフリーザーは、2月にTMG宗岡病院、3月に浅野病院、4月に健康増進センターに配置され、ワクチンに関する相談・予約体制については、電話8回線（問合せ用）に加えて電話2回線（相談用）を準備し、派遣職員8人と兼務職員で対応する予定であるが、職員から10回線だとパンクする可能性があるという意見があったので、業者への委託も検討中である。

(本部員)

予約は各医療機関ではなく市が受けるのか。

(説明員)

かかりつけ医がいる人は各医療機関へ予約を行い、それ以外の方は市へ予約を行うという体制を考えていたが、現在は各医療機関への予約と委託業者への予約を併用したいと考えている。

東京都北区では、個別接種の体制で準備を進めており、各医療機関では予約を受けることができず、委託業者が一括して予約を受ける予定である。

(本部員)

予約業務を委託する場合は、どこの医療機関にどのくらいの予約の空き状況があるのかを常に把握する体制を整備することが大前提となる。

その体制が整備できないのであれば、医療機関と市の双方で予約を受けるのではなく、どちらか一方に絞るのがいいのではないかと。

(説明員)

ワクチン接種日の10日前に各医療機関の予約を打ち切り、その後は健康増進センターにおいて、各医療機関の予約数を6の倍数(ファイザー製のワクチンは1瓶で6回の接種が可能)になるように調整する体制を考えていた。

(本部員)

その体制では予約の調整が難しいと感じる。朝霞地区医師会で接種体制を統一するような動きはないのか。

(説明員)

そのような動きはない。

(本部員)

予約業務を全て委託した場合、かかりつけの患者にしか接種しないという医療機関もあるのではないのか。

(説明員)

そのような医療機関は、接種が可能な医療機関から外している。

(本部員)

近隣の自治体は、どのような接種体制で準備を進めているのか。

(説明員)

和光市は集団接種、朝霞市は集団接種と個別接種を併用、新座市は個別接種での体制で準備を進めている。

(本部員)

予約状況の確認はシステムで行うのか。

(説明員)

国から示された予約システムを検討している。

(本部員)

そのシステムは医療機関にも導入し、市と医療機関双方が利用し情報を共有できるようになるのか。

(説明員)

医療機関には導入せず、市のみ導入予定である。

(本部員)

医療機関から市への情報提供の方法は電話かFAXになるのか。

(説明員)

そのとおりである。

(本部員)

予約システムについては、医療機関においても予約できるよう再度見直し

をすること。また、医療機関との連絡は、先ほど説明があった10回線を使用するのか。

(説明員)

健康増進センターの電話回線を使用する。

(本部員)

今後、65歳未満の人が接種を受けるとき、土曜日や日曜日での接種希望者が増えるかと思うが、接種体制の見込みはどうか。

(説明員)

医療機関によっては、土曜日や日曜日でも対応可能である。また、ワクチンの種類が変わると保管方法等も変わるため、その状況に応じて接種体制を整備する。

(本部員)

ディープフリーザーは2月にTMG宗岡病院に届くが、医療従事者用のワクチンはいつ届くのか。

(説明員)

TMG宗岡病院に確認したが不明である。

(本部員)

なぜ、市はTMG宗岡病院にワクチンの供給状況を確認するのか。TMG宗岡病院はどの機関と連絡をとっているのか。

(説明員)

医療従事者への接種については、市ではなく埼玉県が担当することになっていることから、Aグループ病院（医療従事者への接種を実施）であるTMG宗岡病院は、市を通さずに埼玉県と連絡をとっている。

(本部員)

市は、医療従事者への接種については関わらなくていいのか。

(説明員)

市には、医療従事者の接種費用のみ請求される。

(本部員)

市は、65歳以上の高齢者等の接種から担当することになるが、市が担当する部分についてはどこの機関と連絡をとっているのか。

(説明員)

埼玉県の感染症対策課新型コロナウイルスワクチンチームである。

(本部員)

市民の方が混乱しないように、ワクチンの接種を受けたい人がどのように

動けばいいのかがわかる資料（フロー図）を作成し、担当課だけではなく皆に情報を共有して欲しい。例えば、市民の方に接種券がいつ頃届くのか、医療機関へ予約するときはどのように予約するのか、予約が取れない場合はどうするのかなど、一つ一つシミュレーションしてほしい。

（説明員）

併せて、各医療機関の接種体制（毎日接種を行うのか、休診日に接種を行うのか）や各高齢者施設従業員の接種希望者数、また、各高齢者施設を担当している医師に対しワクチンの接種が可能かどうかを確認する。

（本部員）

市内の高齢者施設の入所者に対しては、毎年、インフルエンザワクチンを接種しているので、その点については問題はないかと思う。

（本部員）

市内の高齢者施設従業員が接種を受けた場合も、市に接種費用が請求されるのか。

（説明員）

従業員の住所地の市町村へ接種費用が請求される。例えば、志木市の高齢者施設に勤務していても、朝霞市在住であれば、朝霞市に接種費用が請求される。

（本部員）

65歳以上の高齢者の接種について、集団接種のように日時を指定して接種させることはできないのか。

（説明員）

集団接種の場合は、いくつか候補日を提示しているため可能であるが、個別接種では難しいと感じる。

（本部員）

住所地内の医療機関での接種を原則とするのか。

（説明員）

住所地内の医療機関で接種を原則とするが、かかりつけ医が住所地外の医療機関にいる場合などは、例外的に住所地外で接種を受けることができる。

（本部員）

TMG宗岡病院で朝霞市や富士見市の接種希望者が増えた場合、市のワクチンが減る恐れがあるが、その場合はどうするのか。

（説明員）

市町村間でのワクチン調整については、まだ国や県から何も示されていない

い。

(本部員)

補足すると、先ほど説明があった65歳以上の高齢者の接種については、50%の人が接種を受けることを想定している。接種希望者がそれ以上増えた場合もワクチンが不足する恐れがある。

また、個別接種については10週(約2ヶ月)ではなく20週(約4ヶ月)を要する可能性も十分にあり、7月末までに高齢者への接種が終了するかどうかだと思う。

(本部員)

予算の範囲で対応できないものがあれば、すぐに財政課に相談すること。

(本部員)

この事業は、誰が接種したかという記録の把握も大事になるため、接種記録については、漏れがないように管理・保存すること。

(説明員)

滞りなく対応する。

(本部員)

相談・予約体制の電話回線について、すぐに電話回線を増やせるように、10回線ではなく20回線ほど繋げるように工事したらどうか。

(説明員)

会場の広さも確認しながら検討する。会場の候補としては、健康増進センターの会議室、柳瀬川駅前出張所2階、水道庁舎2階、ふれあい館「もくせい」などがある。

(本部員)

今後も情報共有するため定期的に本部会議を開催すること。

3 閉会